

# ベトナム／稲作経営の変化傾向

荒神衣美

## ●政策奨励されつづける集約化・効率化

ベトナムでは1990年代に食料自給が達成されて以降、農業の効率化、高付加価値化、国際競争力の強化に向けた様々な政策が打ち出されてきた（参考文献①）。生産流通体制については、2000年代前半にかけて、政府、企業、農家、研究者の4者が連携して農業生産資材の供給から農産品の販売までを統合する「4者連携」という体制の実現が政治的スローガンに掲げられ、大規模な個人農業経営体（チャンチャイ）の発展、合作社を核とする農家組織の発展、契約販売などが奨励されてきた。背景には、ベトナム農業全般に、農業経営の小規模零細性、流通の多段階構造がみられることがある。

2013年には、これらの政策の統合型ともいえる大規模インテグレーション・モデルが奨励されはじめた。「大型農場モデル」と呼ばれるもので、モデル地区となった地域において、隣接する農家が企業との契約のもとで同じ品種や農薬を使用し、1つの大規模農場のように同時に農作業行程を進めていき、生産効率の向上や一定品質品の安定的供給を実現しようという取り組みである。

このような生産流通モデルは、稲作に限らず農業全般を視野に入れたものだが、その大半は、ベトナムのなかでも商業的農業の発展が早く進んだメコンデルタの稲作現場で自生的に出てきた事例を後追したものである。2000年以降のベトナムでは、稲作のなかに新たな農業経営の萌芽があらわれ、そこから農業経営の効率化・高付加価値化の道が模索されてきたといえる。

## ●稲作における生産流通モデルの展開状況

では、稲作を起源とした生産流通モデルは、その後、稲作の現場でどれほどの広まりをみせているのだろうか。最新の農業・農水産業センサス（2016年）の速報

には、農家一般についてのデータが乏しいなか、政策的奨励を受けた生産流通モデルである「チャンチャイ」と「大型農場モデル」のデータは比較的詳細に示されている。公刊統計の内容はその時々の政策動向に左右されるため、これらのモデルの動向が現時点での農業政策上の主要な関心事であることがうかがえる。センサス速報の内容を概観してみたい。

まず、稲作経営が基本的に小規模家族経営に担われているという状況は、1980年代末のドイモイ開始以降も変わりはないと考えられるが、その数は減少傾向にあるようだ。稲作に限らない農家総数は2000年以降減少を続けており、2011～16年の減少幅はこれまでになく大きい110万となっている（959万→849万）。栽培作物別のデータがないため推測の域を出ないものの、農家数の減少がベトナムの2大穀倉地帯であるメコンデルタと紅河デルタで顕著なことから、この5年間に大きく減少したのは稲作農家と考えられる。稲作だけで生計を立てるには最低でも2ヘクタールの規模が必要という指摘もあり（参考文献②）、小規模零細な稲作農家が淘汰されつつあると推察される。

次に、チャンチャイについて見てみたい。チャンチャイとは栽培作物・地域ごとに定められた経営面積と生産額の基準を満たす比較的大規模な農家を指す<sup>(1)</sup>。表1をみると、2011～16年のチャンチャイ総数の増加が主として畜産によるものであること、一方で稲作でも増加が顕著なことがわかる。稲作農家の総数（2011年時点で稲作地使用世帯の数は927万〔参考文献③〕）からみれば、チャンチャイと分類される農家はいまだごく少数ではあるが、大規模経営への集約化という変化の傾向がうかがえる。

大型農場モデルについても、2016年時の存立状況を示した表2から、政策奨励から3年の間に主に稲作で多数のモデルが出てきていることがわかる。ただし、チャ

表1 作物別にみたチャンチャイ数の推移

	2011年	2016年
1年生作物	2,498	3,847
コメ	2,177	3,442
多年生作物	5,986	5,371
カシューナッツ	139	115
コショウ	793	2,117
ゴム	3,269	1,025
コーヒー	1,071	966
茶	13	11
畜産	6,348	20,869
牛	13	56
豚	3,293	14,481
家禽	1,492	3,181
林業	50	112
水産養殖	4,522	2,350
魚	440	670
エビ	2,838	1,194
合計	20,028	33,488

(出所) 2016年農業センサス速報より作成。

表2 大型農場モデルの存立状況(2016年)

	概況			作物別モデル数				
	総数 (モデル)	参加世帯数 (世帯)	面積 (ha)	コメ	メイズ	サトウ キビ	野菜	茶
紅河デルタ	705	264,331	67,556	487	19	1	125	11
北部山地	176	41,162	11,079	135	7	0	11	18
北中部・中部沿岸	675	159,807	54,095	447	21	71	11	0
中部高原	83	10,235	11,299	7	2	15	15	9
東南部	43	2,138	7,435	12	1	8	0	0
メコンデルタ	580	141,670	427,821	573	0	0	0	0
全国	2,262	619,343	579,284	1,661	50	95	162	38

(出所) 表1と同じ。

るのは今のところかなり限られた農家に過ぎない。

以上より、ベトナム稲作において、小規模零細経営の淘汰と大規模経営の増加という変化傾向がみえつつも、大多数の経営体は小規模農家であること、その大半は企業インテグレーションの傘下に入ることもなく、伝統的な多段階流通経路を通じて商品を販売しているという実態がみえてくる。すなわち、新たな生産流通モデルの広まりは認められつつも、伝統的生産流通が主流であるという大枠には変化がないといえる。

### ●伝統的生産流通のなかでの変化

とはいえ、伝統的な生産流通のあり方自体も変容してきている。商業的稲作を主導するメコンデルタでは、2000年代後半以降、次のような変化が顕在化している。

1つは、家族経営の外部経済依存である。メコンデルタでは役畜を利用した耕起、手動機具を利用した収穫が主流だったが、2000年代半ば頃から、トラクターやコンバインの所有者による農作業受託サービスが急速に普及し、耕起・収穫作業の外部委託が一般的となった。また、土地についても2000年代後半以降、農地購入価格の上昇などを背景として、相続または購入を通じた農地保有を基本としていた農家の規模拡大の動きのなかに、賃借取引が目立つようになっている。

もう1つは、流通における新たなアクターの出現である。伝統的なコメ流通経路とは「農家→集荷人→精米業者(玄米へ加工)→仕上げ加工業者(白米へ加工)→卸売業者→国内小売業者または輸出」というものであり、農業政策では中抜きによる効率化が志向されてきた。しかしそれとは裏腹に、メコンデルタでは農家と集荷人の間に「コー」と呼ばれる仲介人が介在する状況が広くみられるようになっている。農家は通常、

ンチャイと同様、稲作農家の総数に鑑みると、モデルに参加している

いくつもの圃場で多種の稲を栽培しているため、集荷人が加工業者からの注文に合わせて一定の品種をまとめた量あつめるには、多大な労力を要する。そうした取引費用を抑えるため、多くの集荷人が広範囲の圃場にネットワークを持つコーを雇用し、品種ごとの買取契約の代行を委託するようになっている(参考文献④ほか、複数の新聞報道による)。

政策で志向される生産流通の集約化・効率化が大々的には進まないなか、伝統的な生産流通構造の内部で起こっている変化は、どのような経緯で広まり、現地の事情に鑑みてどのような合理性を持つのか。この点の検証は今後の課題としたい。

(こうじん えみ/アジア経済研究所 東南アジアII研究グループ)

### 《注》

(1) チャンチャイ認定基準は次のとおり(2011年農業農村開発省通知27号)。

- ①耕種・水産養殖・混合：経営面積が東南部・メコンデルタで3.1ha以上、その他の地域で2.1ha以上、また年間生産額が7億ドン以上。
- ②畜産：年間生産額10億ドン以上。
- ③林業：経営面積31ha以上、年間生産額5億ドン以上。

### 《参考文献》

- ① 坂田正三・荒神衣美「ベトナム農業政策に内在する矛盾——国際競争力の強化か食糧安全保障か——」『農業と経済』Vol.80、No.2、2014年、80～86ページ。
- ② “Gia gao tang, ai duoc loi?” *Thoi bao kinh te Viet Nam*紙、2013年10月17日付。
- ③ GSO, *Results of the 2011 Rural, Agricultural and Fishery Census*. Hanoi: Statistical Publishing House, 2012.
- ④ “Co lua an chan tien ban lua cua nong dan.” *Tuoi Tre* 紙ウェブ版、2017年6月12日付。